

第2回 舞鶴市図書館基本計画審議会 記録（抄録）

日時：令和4年5月19日（木）

午後1時40分～3時40分

会場：舞鶴市立東図書館 研修室

<議事>

(1) 開会

(2) 図書館基本計画審議会 議事

前回審議宿題 a. 中央図書館候補地選定について

b. 公共交通施策 MasS について

c. 広域図書館連携の共同施策説明

d. 専門性を蓄積するための中央図書館

審議会議題⑮ 図書館の設置と運営にあたって

審議会議題⑯ 舞鶴市はどのようなレベルの図書館サービスをめざすか

審議会議題⑰ 舞鶴市新中央図書館の活動と施設環境像を計画する

審議会議題⑱ 新中央図書館を構成する各部門の機能と環境を計画する

審議会視察について

<会議録>

(1) 開会 (13時40分)

(2) 図書館基本計画審議会 議事

前回審議宿題 a. 中央図書館候補地選定について

b. 公共交通施策 MasS について

c. 広域図書館連携の共同施策説明

d. 専門性を蓄積するための中央図書館

*質問、意見は以下のとおり

★ 副会長

- ・宿題 d. について補足する。規模の小さな図書館では、例えば「癌」についての資料は棚一段 40 冊程度しか置くことができないとすると、様々な癌があるので入門の基本的な内容の資料がほとんどになる。小さな図書館を市内に複数つくると便利にはなるが、蔵書として入門書ばかりが増えてしまうという現象が起こる。開架冊数が多い大きな図書館であれば全体のボリュームが増えるので、ひとつの分野についても入門書から専門

的な内容の資料まで置くことができる。浦安市のように超大型の中央図書館と分館という組み合わせにすれば、中央図書館は専門書を手にとれる魅力があるので広い範囲から利用者を集められる。

- ・ 図書館はひとつの建物と考えがちだが、図書館サービスの仕組みは「ネットワーク」なので、小さな分館を資料を取り出す蛇口と考えればたくさん水が出てくると役に立つ。たくさん水を出すには、大きな貯水池のような資料が豊富な中央図書館が必要となる。

★ 会長

- ・ 宿題 a. 3. 最後の行「民間参入が見込まれず『中央図書館を設置すれば』中心市街地活性化の絶好な機会」と記載するとわかりやすいように思う。

☆ 事務局（計画同人）

- ・ 追記する。

★ 副会長

- ・ 塩尻市立図書館も中心市街地活性化となった事例。大規模商業施設が撤退して大きな駐車場を残していったので、それを図書館の駐車場として有効に利用できたのだが、撤退せずに持ちこたえられれば買い物客が増えたのに、とも思う。
- ・ 宿題 b. について、塩尻市でもコミュニティバスを走らせたり、電話で申し込めて好きなところで降りられる公共オンデマンドバスの実証運行を行っている。舞鶴市の meemo(ミーモ)に近いものかと思う。

★ 会長

- ・ 大阪万博でも自動運転バスを計画しているようだ。自動運転の公共交通は数年で実現すると考えられる。

★ 副会長

- ・ 交通機関の最大の課題は人件費なので、その問題が解消されれば、かなり山奥でもバスを回せるようになる。限界集落やスマートシティについての考え方も見直す段階に来ているかもしれない。

★ 委員

- ・ 現在の地域バスは、地区ごとに駅まで行って完結している。東舞鶴駅発着の地域バスが西舞鶴駅まで乗り入れるようになれば、中央図書館へ通うのに便利になるのではないか。

☆ 事務局（図書館）

- ・ 地域バスはコミュニティ単位の運営となっているので、コミュニティがどう考えられるかということも関係してくるが、市全体の公共交通施策でも検討すべき課題であると考ええる。

★ 副会長

- ・ 審議会としては「バス（公共交通）の乗り入れについて図書館への利便性を考慮に入れるべき」であることを明記し、記録すべきだろう。
- ・ 舞鶴市は駅を中心とした区域を「都市機能誘導区域」としていることを、本日の資料で確認した。個人的な意見としては、中央図書館は地価の安い郊外地に大規模駐車場と合わせてつくればよいと思うが、大きな政策のなかで駅前に都市機能を集約していきたいという考えがあるということを理解したい。

審議会議題⑮ 図書館の設置と運営にあたって

審議会議題⑯ 舞鶴市はどのようなレベルの図書館サービスをめざすか

* 質問、意見は以下のとおり

★ 副会長

- ・ 資料⑮-1 文部科学省告示「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」、告示は法律に準じるもので、この内容をクリアしていかなければならない。日本の多くの図書館は児童サービスに傾いていて、舞鶴市の図書館も事業計画や活動報告を聞く限りその傾向にあるが、児童サービスのみでよいとは、この告示のどこにも書いていない。
- ・ 資料⑮-2「役立つ図書館」「情報の窓となる図書館」「広場としての図書館」ここがポイントで、対象は働き盛りの利用者である。仕事や会社設立、病気療養の調べごとのために利用されるような資料を揃えてしっかり運営すれば、市民一人当たり年間 10 冊の貸出は自然に達成できるだろう。日本中に前例はあり、働き盛りの人が利用するから実績が上がっている。資料⑯-1 では「目標値」とされているがちゃんとした図書館をつくれれば、難しい目標ではない。
- ・ 資料⑯-5, ⑯-6「公立図書館の任務と目標：図書館システム整備のための数値基準」について、数値基準は 20 年前の実績数値を基につくられている。近年、もっと規模の大きな図書館が作られている。修正すればもっと数字が大きくなるはずだ。
- ・ 当日配布資料で人口減の場合の基準値の試算を行っているが、そんなに一直線に減るものか。人口が減るから小さな図書館を作ればよいということか。減るのを止めるため、I ターンやU ターンで人口を増やすような魅力的な図書館をつくるべきだろう。

★ 委員

- ・ 財政的なことはよくわからないし、よい図書館をつくれれば利用が増えるということは理解できたが、たとえば京都府立図書館で、登録率はどのくらいなのか。お年寄りから子どもまで含めて全市民で65%の登録率というのは難しいのではないか。

★ 副会長

- ・ 日本のごく平均的なサービスを行っている図書館は、全市民の10%程しか利用していない。北欧や欧米では市民の6～7割の人が図書館を利用して、浦安市では市民の40%が年1回以上図書館を利用している。ちゃんとした図書館をつくれれば利用される。
- ・ 現在目にしている状況では想像しにくいかもしれなが、図書館の持っている可能性に着目していただきたい。実際に利用されている図書館は全国にたくさんある。行政は前例主義で政策を決めることが殆どだが、前例でいえばたくさんある。
- ・ 開架30万冊は多すぎると感じるかもしれない。全てのことに興味がある人はいないが、利用者それぞれの興味は多様で、懐が深くないと多くの人に利用されない。

☆ 事務局（計画同人）

- ・ 策定準備部会を含めて本会で5回目、他市図書館の事例を紹介してきた。1990年に図書館が開館した人口35,000人程の福岡県苅田町では、BMを動かし学校にも出かけて行き、最高の登録率が78%までいった。
- ・ 第一回策定準備部会で紹介した伊万里市では、町丁別の登録率を研究している。図書館の近隣の町では60～70%と登録率が高いが、市域が広いので周辺部が47%と低い。BM(自動車図書館)の回し方を変えて市全体の登録率を上げるよう努めている。
- ・ アメリカの図書館は子どもが利用するように取り組んでいる。子どもが図書館の使い方を覚えると大人になってからも利用するようになる。

★ 副会長

- ・ 現況で利用されているのは娯楽教養・読み物が多いと思われるが、実績が高い図書館は仕事や生活の困りごとを解決するために利用されている。図書館で情報が手に入ると解れば、皆利用するようになる。しっかりサービスの準備をして、使われるようになれば実績は上がる。図書館は実務的な情報を提供するところで、漠然とした「文化の象徴」のようなイメージは捨てていただきたい。

★ 委員

- ・ BMや学校支援、幼稚園・保育園を回ることは登録率を上げるのに有効だというのは理

解できた。副会長が言われたのは、質を上げることなのかなと思った。

★ 副会長

- ・ 資料があるだけでなく図書館の魅力はレファレンス。司書がインターネットを使った調べごとや専門家を紹介するような調査や相談までできれば、利用者はさらに増えるだろう。

審議会議題⑰ 舞鶴市新中央図書館の活動と施設環境像を計画する

審議会議題⑱ 新中央図書館を構成する各部門の機能と環境を計画する

* 質問、意見は以下のとおり

★ 委員

- ・ 昨冬は 70 センチの積雪があった。図書館の建物について、積雪への対応についても記載しておきたい。

☆ 事務局（計画同人）

- ・ 設計段階で設計者が考えることではあるが、建物外周に雨雪対策の庇下回廊を設けることや駅舎から屋根をつなげるアイデアを「建物配置イメージ」に記載した。

★ 委員

- ・ 資料⑰-1「情報系や喫茶系やフリースペース系を併設させたいという市民要望が高く、図書館機能が割愛されている事例も散見される」について、記載の意図を確認したい。福知山市の図書館には障がいを持った方々と飲食して集えるスペースがある。図書館は課題解決の場であるが、交流の場や飲食スペースも課題解決に重要なのではないかと思う。舞鶴市でも子ども食堂などの広がりが見られるが、そういったことが影響しているのではないかと思う。「割愛されている事例」というのは図書を置くスペースが割愛されている、ということなのか。

☆ 事務局（計画同人）

- ・ 近年は交流スペースやカフェ、街の風景を重視する要望が強く、そういったスペースを広くとると市民うけも良いようだ。図書館機能について十分に記載されていない計画書もあって、開架冊数を記載していても、設計が完了してから実際には本が入らないという事例も聞いている。
- ・ 本計画では、目標開架冊数を配架することと中央図書館機能を満足することに重点を置

いて床面面積を算定している。すぐ近くに西駅交流センターがあるので、重複して集会スペースを設けないという考えもある。あちらに喫茶スペースがないのなら、図書館側に設けるなど、今後、市の判断で追加されるスペースがあるかと考える。

★ 副会長

- ・ 複合施設を作るときに、図書館の面積は削られがちである。近年は、補助金 2 本立てで施設を作ることが多く、市民交流スペースが 2 つめの施設となることが多い。
- ・ 集会機能は図書館にとって大切で、交流スペースを広くとっている事例が多数ある。先進的な図書館は賑やかで、交流スペースで生まれた活動や相談ごとを図書館員が資料や情報でサポートする。かつて図書館は静かなところ、というイメージがあったが、最近では基本的に賑やかで、静かにしたい利用者は隔離した読書席で過ごすという構成になっている事例も増えてきた。
- ・ 部屋貸しでない交流スペースにはいつも誰かがいて、図書館にあると人気が高く、盛況になる。人が滞在するにはある程度の距離が必要で、高校生のすぐそばに小学生は座らないし、大人もまた距離をとって居たがる。市民交流スペースは 300 m²では狭いように感じる。

★ 会長

- ・ 資料⑰-1 では、交流や喫茶スペースを設けるために妥協している事例が見受けられる、ということが書かれているだけで、本計画では、本来あるべき図書館の機能を削ることはしない、交流スペースなど設ける場合は 300 m²程度確保したい、ということ。

★ 委員

- ・ 図書館機能の部分は理解できた。福知山市の図書館では多目的な建物になっているから、図書館以外のところに様々なスペースがある。福祉文門や公民館の会議室など。本計画で、交流スペースが 300 m²というのは狭いと思う。

★ 副会長

- ・ 西駅交流センターがあるということだが、交流スペースと図書館を利用者は区別して使用しないので本当は同じ建物にあると良い。

★ 委員

- ・ 西駅交流センターと図書館は一体的な利用を考えているのか。

☆ 事務局（図書館）

- ・市としても敷地選定の当初から、図書館と西駅交流センターの一体的活用を検討している。

★ 副会長

- ・集会室がそちらにあるなら、300㎡を全て交流スペースにすることもできる。
- ・開架室の書架の幅を広げて利用席を設け、交流スペースのように利用できるようにするとよいのでは。

審議会視察について

☆ 事務局（図書館）

- ・6月23日 滋賀県守山市立図書館、あと1館（調整中）を予定している。
- ・守山市立図書館の選定理由
 - ◆人口5～10万人
 - ◆市民一人当たり貸出10冊以上の先進的事例
 - ◆延べ面積 4169㎡ で、本計画に規模が近い

※会長、副会長から 滋賀県の図書館の進化発展についての説明